



生産者と消費者が一体となった持続的なブロッコリー産地を目指す！



実証展示ほの設置



ドローンによる農薬散布試験



実証展示ほ収穫調査



先進地（コンポスト堆肥）視察

1. 地域の特徴と取組の背景

- 阿波市地域は、温暖多照な気候と山間部から平野部にかけての肥沃な土地を生かした**県内屈指の野菜産地**である。
- 令和5年3月に策定した、阿波市農業振興計画に基づき、環境に配慮した農産物の生産手法や環境負荷低減への取組を推進し、**低コストで省力的な農業経営の実現**とともに**消費者の環境保全型農業への理解と認知度向上**に取組み、農業者と消費者が一体となった持続的な産地形成を進めていきたいと考えている。

2. 取組の概要

○ブロッコリー栽培における環境負荷低減技術の検証

- ・取組① **有機質肥料の活用**による化学合成肥料の低減、追肥作業の省力化
- ・取組② **生分解性マルチの活用**による除草・追肥作業の省力化、除草剤の削減、化学合成肥料の低減
- ・取組③ **ドローンの農薬散布**による防除作業の省力化

3. 取組の成果

- 取組① **有機質肥料を活用**し窒素成分量が47%低減したが、化学合成肥料と比べ、生育に大きな差はなく、**追肥作業の時間短縮**が図られた。
- 取組② **マルチ被覆**により生産コストは増加するが、**追肥、除草作業の省力化**ができるため、規模拡大には有効。
- 取組③ **ドローン防除**は、慣行に比べて**作業時間の80%を削減**できた。

4. 今後の展望

- 今回、検証した年内採りブロッコリーにおける環境負荷低減技術について、「**栽培マニュアル**」を基に講習会や現地巡回において、**地域への普及、定着**を図っていく。
- 引き続き、**有機質肥料の活用、秋の高温少雨に対応したマルチ被覆**について検証を行い、地域にあった栽培体系を検討していく。
- 管内の**直売所や野菜ソムリエと連携**し、阿波市産農産物の**魅力浸透**を推進する。

問い合わせ先

阿波市みどりの食料システム推進協議会（吉野川農業支援センター TEL：0883-26-3970）